



「インド仏跡巡拝」霊鷲山山頂にて勤行

(6 ページにも記事掲載)

山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動

発行 山陰教区委員会

〒690-0003 松江市大正町四四三ノ一

TEL 〇八五二 21 四七四七

FAX 〇八五二 27 八三五一

発行所 高橋格昭

インド研修会へ参加して

邑智東組光西寺 田中一夫

このたび夫婦で参加させていただき大変貴重な経験となりました。普段は大阪にいますので、今回このような形で皆様と交流を深めることができましたこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

は石洞窟があり、きつとここで雨季には行脚托鉢には行かずにお釈迦様やお弟子達は洞窟の中で修行されていらつしたのだらうと想像いたしました。

今回の研修で一番印象に残っているのは、霊鷲山^{りょうじゅせん}の山頂にて皆様と一緒に読経させていただいたことです。霊鷲山とはお釈迦様がお弟子に向かって無量寿経や観無量寿経をお説きになられた山です。

二千五百年前にこの霊鷲山でお釈迦様が舍利弗や目蓮尊者やその他多くのお弟子様方に向かって説かれたみ教えが、いまこの私にまで届いているこの不思議なご縁。各時代の先人達のご苦勞のおかげでいまお念仏を慶ばせて頂けていることに頭がさがります。

その山頂で布袍・輪袈裟に着替えて皆様と重誓偈を讀経させていただいたこの経験は、一生忘れることはないと思います。鳥肌が立つような感動に包まれ、お釈迦様との距離がさらに近くなりました。

イスラム教徒が一生に一度は必ずメッカなど聖地巡礼の旅に出られるそうですが、きっと宗教的な感動と再発見があるからなのでしょう。

「本当にいらつした方なのだな」と何とも言えない今までに味わったことのない宗教的な感動があふれ出てくる感じでした。山に

やはり仏教でも仏跡や聖地を巡ることの大切さを改めて感じました。この感動を大切にしてこれらの布教活動に活かしていきたいと思っています。

第四連区布教使研修会に参加して

出雲組妙壽寺 山崎 崇 峰

六月二十九日・三十日に開催された第四連区布教使研修会に参加いたしました。今回は四州教区が担当で、高知県南国市サザンシティホテルを会場に連区内布教使一〇四名が集まりました。同朋研修では『教団と差別』をテーマに、布教団連合同朋研修講師である高岡教区の伯水永雄先生に、また『念仏者の生き方』にご親教をいただいてと題し、中央仏教学院講師である大阪教区の清岡隆文先生に講義いただきました。

夜には懇親会も開催され、高知名物を味わいながら、教区の枠を超えてたくさんの方々と交流できました。同朋研修においては、部落差別の問題を歴史的背景とともに分かりやすく説明していただき、大きな学びとなりました。ただ、自身の差別性にはなかなか気付かないものだと感じました。同朋研修を講義形式だけでなく、例えばグループワークなどのもっと実感の伴う形式を利用していくことも学びを深める上で必要だと感じました。

清岡先生の講義では、伝灯奉告法要で示されたご門主さまのご親教

「念仏者の生き方」を題材に、今必要な伝道について学ばせていただきました。時代の変化に伴って地域や家庭の在り方が変わる中で、教えを伝えていく難しさをはっきりお示しくださり、その上で「今、ここ、私」に届く伝道をしていかななくてはならないとお話しくださしました。そして、伝道は元から簡単なものではないことを仏教の歴史、親鸞聖人のご生涯からご説明していただきました。

この連区布教使研修会は、毎年各教区を巡りながら開催される、布教使の学びと交流を深める場となっています。私の希望としては、ぜひ多くの布教使の皆様にご参加いただき、現在の布教の問題点や新しい視点などを共有し、より発展的な伝道活動につなげていきたいと思っています。



本願寺山陰教堂 報恩講法要

十月二十日(金) 午前十時から山陰教堂の報恩講法要をお勤めいたしました。

松江組・出雲南組・大田東組の御法中に結衆としてご出勤いただきました。また、今回の法要でも、山陰教区雅楽声明の会「雅龍会」の皆様が楽人としてご出仕いただきました。

ご講師の松林行圓師(安芸教区高田西組善立寺ご住職)からご法話をいただき、参拝の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。

教区内各寺院の団体参拝もあり、約八十名のお参りをいただきました。ようこそお参りくださいました。



御本山御用達 瑞明社員

井筒法衣店

代表取締役社長 今岡 規代

(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤル TEL 0120-075-720

フリーダイヤル FAX 0120-075-490

七五色無打 襦袢・袴・法衣・布戸 袈裟・剃刀 念珠・門徒式衣 念珠・門徒式衣

いつまでも色あせない思い出を

遺稿集・追悼集 10冊でも格安でお引き受けします。

自分史、家族の記録、写真集、イラスト・スケッチ集(絵手紙集)、絵画・書作品集、旅行記、歌集・句集、研究書(地区の歴史、地名の由来、趣味の研究記録)、地域の昔話集、絵本、団体・サークル活動記録・記念誌、寺院の歴史・記録、お勤め用冊子など

先ずはお電話・FAX・メールにてお問い合わせ・ご相談ください

(株)谷口印刷 Tel (0852) 36-5888 Fax (0852) 36-5889

mail: vodka@tprint.co.jp (担当: 岩橋)

「第十五回全国布教使大会」に参加して

山陰教区布教団副団長 北 島 清 秀

第十五回全国布教使大会が七月十日・十一日、本願寺と龍谷大学付属平安高等学校を主会場に開催されました。この大会は三年に一度開かれますので、今のご門主さまをお迎えして初めて開催される記念すべき大会でした。今回は「念仏者の生き方―ご親教をいただいて―」をテーマに、全国から約四百五十人の布教使が集まりました。山陰教区からは三十六人の参加があり、全教区の中でも一番多い参加数でした。これは、当教区布教団副団長の朋澤智弘さんが今大会の実行委員長をお務めになったこともありですが、教区内布教使の意識の高さが表れているのだと心強く感じました。

開会式で、ご門主さまは「ツイッター、ライン、ユーチューブといったネットが生活の中心にある現代人へ、み教えを伝える場所と方法の構築が急がれます」と、時代に応じた新しい布教の必要性をご教示くださいました。今回の大会はまさにこのことを考える出発点なのだと気持ち新たにいたしました。

浄土真宗本願寺派総合研究所所長の丘山願海師から「ご親教・念仏者

の生き方」についての基調講演があり、その後のパネルディスカッションでは、このことに関連した議論が交わされました。「阿弥陀さまから『念仏者の生き方』が問われることはないが、社会からは問われている」という意見がありました。時間を取って今、私としては阿弥陀さまから「念仏者の生き方」が問われているのだと考えるようになりました。

大乘仏教は六波羅蜜など正しい道を書くことを説く実践道です。しかし、そのように正しく歩けない私の現実の姿もあります。そこに、はたらくてくださるのが阿弥陀さまの慈悲です。だからといって何もできないという無気力な姿勢ではいけない、というのがご親教にお示しの「少欲知足」「和顔愛語」という生き方だと味わっています。

パネリストの井出悦郎さんが「本堂という舞台装置の中で、袈裟という権威をまとい、飛躍した論理を展開する布教では少しも心に響きません」と、厳しいご意見を述べられました。布教使として響く言葉と姿勢で「念仏者の生き方」を伝える使命があるのだと心した大会でした。

「平成二十九年 度

山陰教区門推協総会・研修会」に参加して

神門組門徒推進員 藤 井 健 藏

去る七月三十日、山陰教堂で開催された首題の会に参加させて頂きましたので、その様子や感想を述べさせて頂きます。

今回は、教務所長 高橋格昭様の新任のご挨拶があり、その後平成二十八年年度事業並びに決算報告と平成二十九年年度の事業計画並びに予算案等の報告があり、何れも原案通り承認されました。

続いて、連研中央講師の季平博昭先生の「仏道をあゆむ―伝灯奉告法要御満座のご消息をいただいて―」をテーマとしたご講話がありました。

中でも、私達の心にひそむ自己中心性は、時として表に現れてきますが、阿弥陀さまの心のぬくもり、温

かさのあるご縁に出あい、ご信心をいただくことが、日々の生活の支え、また、社会のための色々な活動の原動力となるでしょう、と話されました。(詳しくは、専如ご門主さまの「伝灯奉告法要御満座の消息」をご参照ください。)

また、新しい連研ノートの内容についてのご紹介もありました。

中央教修では、人生のおさらいにくる狙いもあり、①本物の門徒となる自覚と皆が支え合うことの大切さ、②御同朋の仲間になる、③そしてやさしさ、ぬくもりを感じあう、等のことも学びあいました。このお話にもありました。お互いに余裕のあるいのちを感じあっているようにう。

合掌

「ご縁まち交流二〇一七」 「お寺×テラアート」

八月二十七日(日)、第三回目となる「ご縁まち交流」を開催いたしました。

今年は普段、本堂横にカフェを併設されている江津組蓮敬寺さま

を会場としてラテアートと抹茶アートを企画してみました。

最初はお寺という空間と、約四十名の参加者にみなさん緊張気味でしたが、思い思いのアートを描くことで、次第にリラックスでき、皆さん楽しまれていたようです。

第二十二回 全国仏教壮年東北大会

九月二日、仙台市にて全国仏教壮年東北大会が開催されました。全国から約一三〇〇名の仏教会員が集まり、会場を埋めました。

山陰教区からの参加者は十九名でした。

大会テーマは「ともにいのち輝く朋友の笑顔」でした。

本大会にはご門主さまをお迎えし、開会式でお言葉をいただきました。

この度の大会では仏壮単位会結成五十周年以上の単位会に対しての表彰があり、山陰教区には表彰対象の

単位会が三単位ありました。

続いての記念行事では、落語家の桂小枝さんによる落語が行われ、会場は参加者たちの笑いつつまれました。

続いて、東北教区宮城組専能寺ご住職 足利一之師よりご法話をいただきました。

講話は「たのむより先に」でした。東日本大震災の時の活動支援などの実体験をもとに、そこでの経験や様々な人々との出会いなどを話されました。

寺族婦人研修会開催

期 日…九月五日(火)～六日(水)
会 場…さひめ野 (大田市)

本年度は、石東ブロックの担当で三瓶山の麓にある「さひめ野」において一泊二日の研修旅行を企画しました。講師には、臨床心理士・スクールカウンセラーでもある武田正文師(邑智東組高善寺)をお迎えして、「日々の暮らしの中でのカウンセリング」坊守として人々の悩みに応え

るには」と題して一日目は「私の心を知る」、二日目は「浄土真宗と私の心」について、ワークショップを交えて講義をいただきました。

また、夕食懇親会では、担当ブロックの方々のコーラスや一人芝居などの余興があり、美味しい料理をいただきながら各組の方々と親睦を深めることができました。十五組から三十五名の参加でした。



手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩



感謝

ぶつだんの

内田恵造商店

・木次・ 0854-42-0266 ・下熊谷・ 0854-42-3711 ・出雲・ 0853-21-3253

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店

寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社

古田た佛具製作所

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

山陰教区主催で 「中・四国真宗青年のつどい」を開催

十月七日・八日の二日間、「中・四国真宗青年のつどい」を開催しました。

会場は出雲市平田町の島根県立青少年の家サンレイクで、中四国内から三十一名の真宗青年たちが集まりました。

山陰教区の仏青は近年活動をしておらず、今回の中四国大会をきっかけに仏青の体制を立て直すことを目標に動き出しました。

一日目はレザークラフトとガラス加工の二つの班に分かれ、工作体験を行いました。レザークラフト班はいろいろな柄やアルファベットのポンチを使用し、レザーに好きな模様を打ち、色を付けオリジナルのキーホルダーを作りました。ガラス加工は無地の透明なグラスにテープでマスキングをし、サンドブラストで模様をつけるというものでした。

出来上がった作品は、各々記念品として持ち帰っていただきました。

初日の夜の懇親会では、バーベキューハウスにてバーベキューを行いました。門信徒と寺族が、様々な話をとおして懇親を深めました。

二日目は宍道湖にてカッターという船の体験を行いました。心配していた天候にも恵まれ、最高の天気の中で、宍道湖へ漕ぎだしました。

思いのほか過酷な船で、最初はなかなか漕ぐタイミングが合わず苦戦していましたが、時間がたつにつれてタイミングが合ってきてうまく進むことができるようになっていきました。

二日間の時間はあっという間で、初めのほうは緊張気味でしたが、最後には打ち解けた様子がうかがえました。



仏教壮年会連盟 鳥取ブロック研修会

八月二十日、山陰教区仏壮連盟鳥取ブロック研修会を開催しました。

会所は鳥取伯耆組香宝寺、ご講師は香宝寺前住職・上杉正之師、テーマは「仏壮活動は誰のため」でした。はじめにご講師から講義と問題提起をいただき、午後からは四つの班に分かれて分散会を行いました。自分の所属する仏壮会での活動や取り組み、問題点などを話し合いました。

仏壮活動にかかわることにより、自分は何をすべきかという自覚を持ち、さらに仏壮活動がいかにして周囲の人や地域に貢献できるかなど、仏壮会員としての自覚を持ち積極的に行動することを心掛けることが、仏壮会のあり方なのでは、と講義をいただきました。



インド仏跡巡拝に参加して

神門組乗光寺門徒 福江 紀久雄

今回、山陰教区教務所でインド仏跡巡拝の企画を知り、傘寿の齢を間近に控え、お釈迦様の聖地を訪ねる等の内容に飛びつく思いで参加を申し込みました。ただ一抹の不安は病後の身で体力が続くかでした。

海外旅行慣れした妹が、介護人を兼ねて参加を申し出てくれたので助かりました。

初めて海外旅行をする私にとって、旅行会社添乗員さんの全旅程きめ細かい案内と指示には安心できました。

インド第一日目、一行三十二名はデリー空港から国内線とバスで長距離移動でした。これから初めて目にする遺跡に心踊る思いが疲れを忘れさせ、やがて玄奘三蔵法師も学ばれたナーランダ仏教大学跡、天竺と称される地を参観しました。

第二日目は全員早起きして、観無量寿経が説かれた霊鷲山にバスで向かいました。参道では沢山の地雷(牛糞)に最大限の神経を配りつつ山頂に辿り着きました。

ここで初めて、全員でお勤めをい

たしました。雨期の終りの季節ながら天候に恵まれ、ご来光を背にしての勤行は身にしみる有り難いことでした。午前中は聖地竹林精舎、七重の牢獄跡、王舎城の南門を参観し、各々写真休憩をいたしました。午後

は成道の地ブダガヤへ移動、二五〇年前にお釈迦様が悟りを開かれた「聖大菩提寺」で二回目のお勤めをいたしました。

その後、今回最も長距離のバス移動となったヒンズー教の聖地へと向かいました。

第三日目は聖地ベナレスの聖河ガンジスで沐浴する信者、その僅か河下の岸辺で数箇所木を積み火葬が行われている現実、船上から一同驚きの目で注視しました。

その後お釈迦様が最初に説法された初転法輪の地サルナートに向かい、僧院跡では立派なダメーク大塔を前に三回目のお勤めが行われました。

今回由緒ある聖地で式章を掛け、三度のお勤めは教務所長様の調声、各聖地においては、若い住職様方の

ご法話を聴聞させていただき、胸が熱くこみあげる感動を覚えました。また、世界遺産に登録された各聖地の広大さと、当時の隆盛を計り知ることすら覚束無い私は、お釈迦様の偉大さに圧倒され、目の当たりにした情景を思い浮かべ夢の中に吸い込まれていく有り難い日々です。

合掌



仏教婦人会連盟

御同朋の社会をめざす運動研修会に参加して

千須賀組あすな仏婦 日 高 淑 子

今年度も山陰教区の「御同朋の社会をめざす運動研修会」が開催され親婦として出席しました。

今年度も山陰教区の「御同朋の社会」の家々を思い浮かべながら聞きま

ご門主さまの伝灯奉告法要のご親教から始まり「日常の寺院活動、地域と寺院とのつながりを大切にする」をテーマに、研究員の坂原英見先生のお話しでした。私が住んでいる邑南町と先生のお寺とは、県は違いますが車で三十分もかからない所です。先生のお話しの中の地域が私の地域と全く同じで、お寺のご近所

直葬や、家族葬が増えていることは、テレビ等でよく見ますが、私の所はそれでも今迄と同じように集落の人がお世話をしています。(五十年前に嫁いで来た時は十六戸でしたが、今は九戸に減りました。)しかし、葬儀が終わりますと直ぐお帰りになる人が増え、お斎の数もずい分減りました。実家の親が高齢になったので代りを務めるとい、先生の

お話しにあった「帰還地出者」もあって「まだ集落でできるネ」と話し合っています。

私たちの仏婦では、降誕会に併せて初参式を行います。他出者へも声をかけて、お参りされた赤ちゃんへ記念品を贈りお祝いをしています。

四月には中学校の卒業生は全員家を離れますので、三月の卒業式の翌日あたりに全員でお寺に参り、ご住職から「感謝の気持、念仏、作法」などについての話しをいただき、仏婦からは、お念珠と伝道冊子「日々の糧」を卒業祝いとして贈ります。両親や、祖父母の方達からみたいへん喜んでもらい、今後も続けたい活動です。

千須賀組のコラス、若婦の研修

でありました。

このような布教大会への出講は、初めての体験でありましたので、大変緊張しました。

舞台上に立つと黒い衣の影が私を襲う。今までにない究極の恐怖がありました。しかし、皆さまの優しい眼差しに支えられ、お取り次ぎを無事に終えることができました。

後の講評の時間では、たくさんの方の貴重なお指導を賜り、とても尊いお育てを頂いたことでもあります。これから布教使として歩んでいく私に

会、仏の子ども大会や、自治会の敬老会、なども協賛しています。

一方で、女性の進出が進む中、若い女性のお寺離れが進んでいくのが悩みです。

そういう中にある、今後とも仏婦として、お寺と地域を繋ぐお手伝いが少しでもできるよう頑張りたいと思います。



とって、大変貴重なご縁となりました。また、他の布教使のご法話を聴かせ頂く中で、大変多くの刺激を受けたことでもあります。

中四国地方のたくさんの方々と交流でき、とても意義ある二日間となりました。

「平成二十九年第四連区

青年布教使研修会を終えて」

千須賀組眞浄寺 毛利孔晶

九月二十八日・二十九日に本願寺備後教堂で行われた第四連区青年布教使研修会に参加させて頂き、さらに出講者として、布教実演のご縁を賜りました。

布教実演では、広島県福山市の

四カ寺が会所になってくださり、各会所で青年布教使三名ずつが布教実演を行い、最後に先輩布教使からまとめのご法話を賜りました。今年のテーマは、「伝灯奉告法要」でのご門主さまのご親教「念仏者の生き方」



「第四十一回 全国寺族青年軟式野球大会」

山陰教区野球部監督 上 杉 信 成

九月二十六日・二十七日、熱くて楽しい全国大会に行ってきました。

今年は十月に多くの教区行事と寺院行事が予定されていたため、それに関わる青年僧侶(部員)が出場不可能となり八名の部員で参加しました。

規定により敗戦の条件で本山から一名の補充をしていたが、山口教区Aチームと対戦して九対二と快勝いたしました。参加選手が少ないな

がらも部員が一体となり素晴らしい試合をさせて頂きました。

野球部員の平均年齢がだんだんと高くなってきました。寺族の若い方は是非入部してください！(未経験者歓迎。マネージャーも募集しています。)三月から九月までは月に二、三回練習しています。一緒に体を動かして、たまに美味しいお酒を飲みましょう！

入部のお問い合わせは教務所まで。

キッズサンガ組サポーター研修会

十月二日(月)、本願寺山陰教堂教化センターにて、子ども・若者ご縁づくりのさらなる推進のため、組キッズサンガサポーターを対象とした研修会を開催いたしました。研修テーマは、『思春期・若者の生きづらさとその背景・生と性と死を通して』。

ご講師の古川潤哉師(佐賀教区松浦組浄誓寺衆徒)から、現代の若者を取り巻く現状や接し方について、お話しをいただきました。古川師は、宗派の子ども・若者ご縁づくり推進

委員会の委員を務められ、また、日本思春期学会理事としてご活動されています。

講義後の全体会では、子ども・若者に対する取り組みなどについて協議を行いました。参加人数は、十五名。アンケートでは「今までにない切り口からの内容で興味深かった」「今の中学生の性についての考え方や、それに対する接し方について聞けて良かった」といった感想をいただきました。



『連研のための研究会』

十月四日、「連研のための研究会」を本願寺山陰教堂教化センターにて開催しました。各組から組長、連研担当者を中心に四十一名が研鑽しました。新教材連研ノートEは十二の問い『起(一・二)承(三・六)転(七・十)結(十一・十二)』にわかれており、一年にひとつずつ取り上げて今回は(結)について研修しました。

講師は兵庫県から連研中央講師の棚原正智先生を迎え、連研ノートに込められた意図について講義いただきました。参加者に手伝ってもらい話し合い法座のシミュレーションをしながらの研修会でした。

講師から「自分に向き合えるように」「発言者に対する共感と尊重」という言葉を連研の総括といただきながら、学び考え、模索していく必要があるのではないかと感じました。



特別法務員・ 法務員試験合格者 連絡協議会、勤式研修会

十月六日(金)、本願寺山陰教堂教化センター研修室で、「特別法務員・法務員試験合格者連絡協議会」並びに「勤式研修会」を開催いたしました。連絡協議会では、山崎崇峰教区勤式指導員から本山での勤式研修会の報告をいただきました。また、協議の中で、この度円成した「第二十五代専如門主伝灯奉告法要」のお勤めや内容について、出席者からご意見をいただきました。

午後から開催した勤式研修会では、本願寺会役者・檀本昌広先生から、「法式故実(ほっしきこじつ)」について講義をいただきました。お荘厳や作法の由来・歴史など、基本的な事柄について学ぶことができました。



同朋社会研修会開催

同朋社会部部长 大草眞教

七月三十一日、松江テルサにて山陰教区同朋社会研修会を開催いたしました。講師はNPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表の清水康之氏。清水氏は元NHKディレクターで、在職中は主に『クローズアップ現代』を担当され、自死遺児を取材し「推進役」のいない日本の自殺対策に限界を感じ、NHKを退職。自らが自殺対策の「つなぎ役」となって活動しようとNPO法人ライフリンクを設立。法制化を求めて署名を企画し、一〇万人分集め、二〇〇六年「自殺対策基本法」成立にも貢献。自殺問題の「社会化」へ踏み出す。内閣府参与に就任し、「自殺対策一〇〇日プラン」を取りまとめ、例年自殺が増える三月を「自殺対策強化月間」に定めた。「自殺対策基本法の改革、政府の推進体制の強化、地域自殺対策予算の恒久化」に貢献。持論は「自殺対策とは『生きる支援』『いのちへの支援』である。

日本の現実として自殺率は世界六位、アメリカの一・五倍、イギリス・イタリアの三倍、四十〜六十代の男

性が全体の三十五%を占める。十五〜十九歳、二十〜三十歳代の死因一位。

一人が自殺で亡くなると、四〜五人が遺族になる。毎年十万人を超し、全国では累計三百万人を超し、国民の四十人に一人が遺族となる。年間三万人を超していた自殺者が二万人に減少と見るのではなく、遺族増加のスピードが鈍ったと見る事が大事。

自殺は様々な社会問題が最も深刻化した末に起きている。自殺に対応できる地域の取組、チカラは、他のあらゆる社会問題に対しても有効に機能するはず。これまで「点」として散在していた地域の相談機関や専門家を、当事者のニーズに応じる形でつないでいく。そうした「縁」を沢山紡いでいくことで「面」としてのセーフティネットができる。自殺対策(生きる支援)が、地域づくりの絶好の切り口になる。そこから「生きる心地のよい社会へ」。ライフリンクのモットーは「新しいつながりが、新しい解決力を生む」。設立当時(十二年前)は理念だったが、いま

や確信に変わっている。私たち一人ひとりには微力だが、無力ではないのだから。

正しく「心豊かに生きることのできる社会」の実現に、苦しみ・悲しみに寄り添う運動を実践されている方でありました。

「誰でも自殺に追い込まれることのない社会へ」と題しての研修会に、山陰各地から八〇余名の参加をいただきました。参加者の方が各組に持ち帰って、運動の新しい一歩を踏み出す一助となれば幸いです。



若寺族婦人研修会開催

期 日…八月八日(火)

会 場…佐波組浄土寺

テーマ…子どもになってサマースクールを体験しよう!

本願寺中央日曜学校(龍谷大学宗教教育部)から大学生五名を講師にお迎えして、サマースクールの体験型研修を開催しました。このたびは少年連盟指導者の方や、参加者の子どもさんにも一緒になって参加していただきました。研修会では、人形

劇の上演や体を使ったゲームなど学生さんのパワーに圧倒されながら、童心に返った気持ちになってサマースクールを体験することができました。

また、午後からは、邑智ブロック佐波組の皆様手作りの山クジラカレーのおもてなしや、紙芝居、ピエロアッキーのバルーンアート、最後にお茶タイムがあり、盛りだくさんの内容で交流を深めることができました。子どもを含め三十四名の参加でした。



初心者のための浄土真宗(若婦人聞法のつどい)開催

期 日…八月二十日(日)

会 場…あすてらす(大田市)

テーマ…「仏教を身近に感じよう」
島根のお坊さんによる
コンサート

講師に、ザ・スペシャル坊ズ(島根県内の浄土真宗僧侶による音楽グループ)を迎え、音楽をとおして浄土真宗のみ教えにふれていただくコンサートを企画しました。

前半は、進行役の仏婦委員長とメ

ンバー六名による対談、後半は、コンサートを行い、音楽のリズムにのせて、浄土真宗のみ教えを初心者にもわかりやすくお話しをしていただきました。参加者からは、「若い僧侶の本音が聞けて身近に感じた」「本格的でびっくりした」「音楽を交えてのご法話が心に入りやすく、楽しみなが聞かせていただきました。子どもを含め四十九名の参加でした。



山陰教区僧侶研修会

八月二十九日(火)・三十日(水)、出雲市民会館で二〇一七(平成二十九)年度山陰教区僧侶研修会を開催しました。

勤式講習会では、『莊嚴・作法』基本の確認と題し、山崎崇峰教区勤式指導員からご指導をいただきました。

講義では、浅田恵真和上(本願寺派勧学、龍谷大学名誉教授、大阪教区天野南組因念寺住職)から叡山浄土教の展開についてスライドショーを使いお話をいただきました。

二日間の参加人数は延べ一〇三人。参加者からは、「天台宗と真宗の往生の違いがよくわかった」「真宗と違った角度から考える時間になり大変勉強になった」といった感想をいただきました。



平成二十九年度 山陰教区門徒総代研修大会報告

門徒総代会会長 上田 正吉

山陰教区は、鳥取から石見までの細長い地域を占めている。そのほぼ中央の出雲市を会場として、参加者二〇〇名の参加の下、新しい試みとして、パネルディスカッションの形式をとって開催した。

(一) 実施内容

①期 日 十月十二日 (木)

②会 場 ビッグハート出雲

③テーマ 「結ぶ絆から広がるご縁へ」

― 将来展望に基づく護持のあり方 ―

④講 師 坂原英見先生

備後教区三次組東光坊住職

⑤パネリスト／テーマ

・村上征男 (鳥取因幡組・西法寺)

鳥取県と島根県の差異と葬儀、法座について

・広澤英雄 (出雲南組・善徳寺)
葬儀の変化 (家族葬の増加)

自坊の特色ある活動紹介

・松下 誠 (大田中組・浄福寺)

自坊の特色ある法座活動

・大迫五十鈴 (教区仏婦連盟委員長)

自坊の仏教女性会の活動

・松村淳真 (大田東組組長)

葬儀の意義

葬儀社に望まれること

人が集まる法座、魅力ある寺

⑥コーディネーター

上田正吉 (大田西組・敬願寺)

(二) 総 評

・葬儀は会館で実施されているが、寺で会葬することが望ましい。

・次世代との離住のため次へ続かない。

・法座の充実 (魅力ある寺)

(三) 講 演 「将来展望に基づく護持のあり方」

・山陰教区では特に寺院護持は厳しい (寺院収入、門徒戸数が少ない)。反面、兼職による努力と成果が見られ、特に住職方は地域と一体となつて行事に参加しておられる。

・三次組の作木の取り組みの紹介

(四) 結 び

門徒と共に歩む住職。門徒の模範として、常に率先して活動することが総代の役割。住職と総代との連繋の大切さ。

実態に基づき今後の護持に向って、常に問題提起しながら取り組むことが大切である。

今回の研修大会は、各パネリストの発表、意見交換等、生の声も出て実り多きものとなった。



本堂が「しまね建築・住宅コンクール」最優秀賞受賞

最優秀賞受賞

島根県が主催する「しまね建築・住宅コンクール」建築物部門において、出雲南組・善徳寺 (楠縁人住職・雲南市三刀屋町) の本堂 (平成二十四年三月竣工) が、平成二十八年度の最優秀賞を受賞。このコンクールは、概ね五年以内に建築 (新築・増築・改築・移転) された建築物が対象となっています。

平成二十八年度の募集テーマは「生活環境の変化に順応する、わが街・わが家の工夫・くらしを取り巻く課題への対応」でした。



教務所冬期休暇について

当教区教務所冬期休暇を次の通りとさせていただきます。

二〇一七 (平成二十九) 年十二月二十九日 (金) から

二〇一八 (平成三十) 年一月五日 (金) まで。

第二十一回 部落解放島根県講座 十六名が参加

期 日 十月十八日 (水)
会 場 松江市総合福祉センター

本講座は、部落解放同盟島根県連合会が主催し、部落解放・人権政策確立要求島根県実行委員会が共催、島根県や各企業などが後援する二五〇人規模の講座です。

今回は、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的に講座が設定されました。

第一講座は、「部落差別解消推進法制定までの取り組み」、第二講座は、「部落差別解消推進法の積極的活用への課題」について講演がありました。山陰教区からは、同朋社会部部員並びに各役職者ら計十六名が参加しました。



第四連区 門徒推進員実践運動研修会に 参加させていただいて

江津組光善寺(後地) 長井正樹

台風の影響もなく、担当された山口教区の心のこもったおもてなしをうけ、第四連区各地から集った有志百三十余名の門推員とのご縁をいただきました。

今回の研修会で、ご講師が「あなたは何を残して死にますか」の問題提起については、門徒同士で死んだ

らどこへいくのだろうかという話し合い等はしております。また妙好人「六連島のお軽さん」についても、本を読んでもりました。しかし、今回はご講師と熱心な参加者の意見を聞いておりまして、自然と何度も涙がでてきました。なぜかというところ、これまでの私は知っているという知識

でしか理解できていない自分に気づいたからです。また、第四連区には、「お寺の活性化に向けた成功事例」等のノウハウがたくさんありました。これらを参考に、これからはお寺の住職と相談し、できることから実践したいと思います。

ご講師の問題提起について、私の残すものは、赤いマーカーを引いて勉強した通信教育のテキスト。そしてお聴聞をかさね、阿弥陀さまの願いの中でお育ていただき、お浄土へ往生させていただくことを子や孫に伝えることです。

「離郷門信徒のつどい(ふるさとの会)」

開催のご提案について

宗門では、全国各地の人口集中

するものです。

都市へ移り住まわれている寺院や門信徒、また、核家族で過ごされている次世代の方々への伝道に取り組むため、直轄・直属寺院等を会場とする「離郷門信徒のつどい」の開催を奨励しています。ふるさとを離れて過ごされている門信徒の方々のご住職、そして、浄土真宗のみ教えとの出遇いの場を提供

現在、さらに多くの方々がご法縁に恵まれますよう「離郷門信徒のつどい」を開催する団体に対して、開催規模に応じた助成金の交付を行うなど下記のとおり支援をいたしております。

浄土真宗のみ教えを、次の世代へ伝える場としてご活用いただきますようご案内申し上げます。

〈支援内容〉

- ① 「離郷門信徒のつどい」開催にかかる相談・受付
- ② 会場・備品等の無償貸与(事前に日時確認・申込等が必要)
- ③ 当日の開催補助及び開催助成金の交付

※問合せ先、宗派寺院活動支援部
(過疎地域対策担当)

TEL: 〇七五二三七一五二八一

(代表)

ドレミファ組

大田西組実践運動

大田西組実践運動委員 菅原 昭生

大田西組実践運動の実践目標は、第一期から継続して「日常の寺院活動」地域と寺院のつながりを大切にする」です。

重点プロジェクトでは「門徒から寺院へ」・「寺院から門徒へ」という双方のつながりを深めるご縁として「報恩講・仏事」を捉えています。

まず、報恩講についてその意義や由来、営み方を門信徒の皆さまに親しくお伝えするためにリーフレット『報恩講って何ですか？』今さら聞けないQ & A』を作成。これを組内全ご門徒へ配布して、組や寺単位での研修会などで活用していただきました。

「門徒から寺院へ」のご縁としては「報恩講スタンプリング」を実施しています。毎年三十名を超える方が、表彰対象である六ヶ寺以上の参詣をされており、組内全寺院に参詣者の広がりを見ることができました。

一方、「寺院から門徒へ」のつながりを深めるため「門徒報恩講実施率のアップ」を目指しました。そのためにも、組内各寺院の門徒報恩講実施率を調査集計したところ、組全体の実施率は四三・〇パーセントである

ことが判明しました。

そこで、組の研修会では報恩講をテーマにした話し合いを継続すると共に、寺院ごとに年度単位の数値目標を設定してご尽力いただきました。その結果、平成二十九年三月時点で組内門徒報恩講の実施率が四八・二パーセント（過去四年で五・一ポイント増）となりました。

新規に営まれる家庭が増えつつも、絶家や老齢化等による転出・移転等で報恩講の継続実施が困難になるというケースも頻出しています。そのような中でのこの数字は有難いことです。が、まだ今後に向けて伸びしろ・可能性があるともいえます。

課題の達成は「やるか、やらないか」で決まります。「できるか、できないか」では、できない理由や言い訳ばかりが考え巡って、永遠にできないままです。

「やるか、やらないか」。そして、やるためには、何を為すべきか……。ここからが私たちの実践運動の始まりです。

「鳥取県中部を

震源とする地震」

見舞金について

昨年十月二十一日に発生しました鳥取県中部を震源とする地震について、教区内外から当教区教務所宛に見舞金をいただきました。お寄せいただいた見舞金につきましては、被害に遭われた組へ送金させていただきます。

皆様のご支援、ご協力に感謝申しあげますとともに、一日も早い復興を衷心より念じます。

合掌

見舞金をお寄せ

いただいた方々

(平成二十九年四月～九月)

山口教区教務所、山口教区大津東組、山陰教区仏教婦人会連盟、山陰教区寺族婦人会連盟、松江組仏教婦人会連盟、邑智西組仏教婦人会連盟（敬称略）



御本山用達

株式会社

川勝法衣店

0120-075-055

〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入

TEL.075-371-0367 (代)

FAX.075-371-5088



感動のそばに、いつも。

株式会社 JTB中国四国 松江支店

〒690-0003

松江市朝日町498-6 松江駅前第一生命ビル2階

TEL 0852-23-6720

FAX 0852-23-7739

営業時間：9:30～17:30（土・日・祝日休業）

鳥取県中部地震から一年。地震の際には山陰教区の多くの方より励ましのお言葉、身に余るお見舞いなどを頂戴し本当にありがとうございました。

昨年中止せざるを得なかった家庭報恩講や報恩講法座も本年はお勤めすることができました。各ご門徒様のご自宅を訪れお参りをさせて頂くと、ご門徒様の家があつたはずの場所が更地になっていたり、未だ修復が終わっていない家が数多くありました。というよりもほとんどの家で修復が終わっていないませんでした。その傷跡は未だに形に、そして心に残っています。

この地震はこの地域からいかに多くの方々が都市部に流出しているかを浮き彫りにしました。街中に空家が多いのは聞いていましたし、お墓だけ地元に残っているという事例も数多く聞いておりましたが、そんな中、地震後の様々な事情によって、踏み切りが付き、家の解体やお墓の移設の案件が急激に増えました。実際に更地となった家の跡地や墓地の空き区画を見ると数字やお話だけでは響か

帳 楽 憂

－ 震災から一年 －

鳥取伯耆組妙寂寺住職
兜 坂 彰 英

ない現実味を感じるところです。お墓を修復か移転か、はたまたしまうのか。地震によりお墓の維持について考えさせられる機会となりました。「遠方から管理して頂いていた方」、「今後見て頂く方がいらつしやらない」、「子どもや孫に遠方から管理してもらうのは忍びない」、などそれぞれ気に掛かっている事をいよいよきちんと考えなくてはならない事態となりました。これには私も頭ごなしに「お墓は大切にしないといけない」という態度ではなく、お仏壇のことについても、そのご家族が納得いただける形を提案することに努めました。その為にも僧侶が柔軟さと多くの選択肢を提示できるように日々情報収集をする必要を感じます。

当山は皆様方のおかげをもちまして来年の夏か秋くらいには全ての修復が完了する予定です。これから門信徒の皆様方と手を携えてお念仏の道を歩ませて頂きたいと思ひます。

編集後記

教区布教団主催のインド仏跡参拝、参加者それぞれに思い出深い研修旅行になったようです。ご寄稿ありがとうございました。

イチヨウが色づきはじめ報恩講シーズン到来の今日此頃。この教区報が皆様のお手元に届くのは、年末年始の準備をしていらっしゃる頃でしょうか。月日の過ぎる速さを実感しています。あと何回報恩講の御縁に遭遇せられてもらえるかと考える年齢になりました。正信偈の「唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩」とのお言葉をしみじみと味わっています。教区報でも教区内各地の報恩講の様子を取り上げてみたかどうかと思っているのですが……。

時代の急激な変化の中で、報恩講の意義や大切さを、今の世代や次世代にどう伝えていくのが問われているのではないのでしょうか。

教区報で取り上げてほしい行事や情報等ございましたら教務所教区報担当までお知らせください。ご意見ご感想も待っています。(F)

協賛
瀬尾浩義商店

〒七三三〇八五一
広島市西区田方三丁目
九〇九一―一三〇一
TEL〇八二―二七二―八四六一

ご本山の団体参拝は我が社にお任せください！

近畿日本ツーリスト

株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店

TEL : 0852-22-4893 FAX : 0852-27-8359

〒690-0887 松江市殿町 517 アルファステイツ殿町 1F

観光庁長官登録旅行業第 1926 号 総合旅行業務取扱管理者 弥勒院琢磨

担当者: 佐藤・平崎